

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) [http:// www.sakuramachi-hp.or.jp/](http://www.sakuramachi-hp.or.jp/)

基本理念

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域の医療機関や福祉施設と密接な連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 患者さんの全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 医療従事者の力を結集した患者さん中心の総合的なチーム医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの声に誠心誠意耳を傾けます。

新春巻頭言

病院創立80周年に思う

～病院の歴史や先人に思いを馳せる～

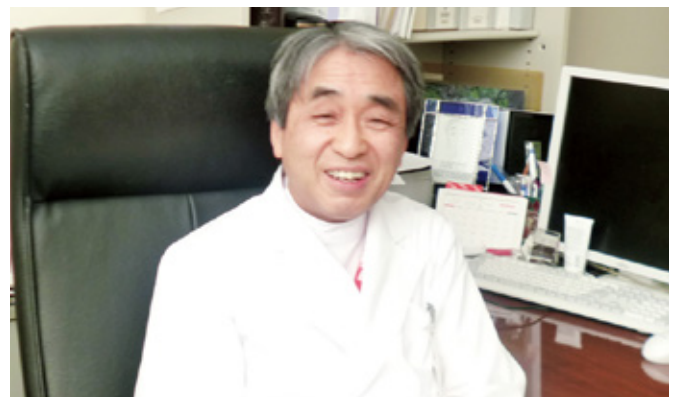
社会福祉法人聖ヨハネ会桜町病院は今年、創立80周年を迎えます。この節目の年を迎えることができましたのも先人たちの努力と多くの皆様のご支援の賜物と感謝しております。

桜町病院はカトリック司祭であり医師であった戸塚文卿師が昭和14（1939）年現在地に、当時社会問題となっていた結核を治療するカトリック病院を創設したことに始まります。病院建設用地の選定に土井東京大司教も土地を見に来られており、理想のカトリック病院を目指した師の思いが伝わってきます。師の志は今も引き継がれ「私たちはキリストのように人を愛し、病める人、苦しむ人、もっとも弱い人に奉仕します」という病院の理念になっています。

「聖ヨハネ会50年誌」には昭和43（1968）年に毎日新聞社から刊行され社会に注目された本、医事評論家水野肇著『ユニークな病院－医療のひずみをきりひらく人々』のことが載っていました。まえがきには、日本には6,000近い病院があるが、いま医療のひずみを受けながらも、なんとか切り抜け、多くの業績をあげている13の病院を選んで、直接訪ね、ありのままを描写したとあり、この13の病院の中に「日本人のつくったカトリック病院、桜町病院」と当院のことが書かれています。原文のまま一部を抜粋すると、【わが国にもキリスト教立の病院は数あるけれども、たいていは外国の宣教師が中心に設立したもので、桜町病院は日本で唯一の日本人の信者によってつくられた大病院である。創立者戸塚神父は、カトリック司祭であるとともに外科医であったが当時激増した結核患者を救う決心

をし、小金井に桜町病院を建設すべく取りかかったが突然重患にかかり病院の完成を待たず帰天した。神父の許で、神父を助けていた子女の集団が「聖ヨハネ会」と呼ばれる修道会を創り物質的な報酬をまったく期待せず、病院事業を神への奉仕と考えて従事した。桜町病院にはいくつかの特徴がある。まず入って気づくことは、玄関に入ると案内の女性がいる、喜色を満面にたたえて仕事に生きがいと喜びを感じながら仕事をしているといった表情である。案内の女性だけがそうなのではない、受付のお嬢さんも、ナースも、みんなが仕事に喜びを感じて、生き生きとしていて、親切がたっぷりのものでなく心からの発露として現れている】。

病院の職員が、生きがいを感じながら、誠実に患者さんに向き合おうとしている様子がわかり、当時の空気が伝わってきます。現在の総合受付、案内ボランティア



桜町病院長・小児科

小林 宗光

Munemitsu Kobayashi

イア、外来コンシェルジュにつながるものが以前からあったことに感銘し、これが桜町病院が創立以来培ってきた「桜町の心」なのだと、ひとり、合点しました。それにしても病院完成直前に、それまでのすべてを牽引してきた創立者を失い、創立当初は病院の運営に困難を極めたであろうと思われ、先人のご苦勞に身が引き締まる思いです。

桜町病院は時代を見据えながらも、もっとも弱い人に奉仕しようと病院を運営してきました。新生児から終末期まで生涯を通じて地域の皆さんの健康を支える

ことができる体制を整え、高齢者医療、終末期医療、無料低額診療や障害のある児への診療にも力を注いできました。平成6年に独立型ホスピス病棟、平成17年に療養病棟、平成28年地域連携型認知症疾患医療センター、平成29年地域包括ケア病棟を開設。今後もこの地域で担うべき役割を意識し、地域の医療や介護との連携に一層力を尽くし、桜町マインドで患者さんの心の痛みをも理解してケアができるよう、患者さんの視点に立ったより良い医療の提供に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

チーム 桜町



地域医療連携室

地域医療連携室は**連携係、医療福祉相談係、退院支援係**の3つの係にわかれ、連携部長、副部長、室長、退院支援担当師長、ソーシャルワーカー（MSW）6名、事務3名の13名で構成されております。

連携係では、当院を受診された患者さんで他院受診の必要がある方の診療予約をとる、市内医師会の先生から当院専門外来の紹介予約対応、紹介元・紹介先医療機関の統計作成等を中心に業務を行っています。

医療福祉相談係では、入院中の患者さん、外来患者さん、ご家族、患者さんの関係機関などからの様々な相談に社会福祉士の資格をもったMSWが応じています。相談内容は入院、外来受診の相談、経済的な相談、療養生活での困りごと、社会資源の紹介など多岐にわたり、電話や面接で対応しています。

退院支援係では、入院中の患者さんの退院支援を専門に行っています。入院によって、ベッドや車いすなどの福祉用具、ホームヘルパーやデイサービスへの通所などのサービスを利用しなくては在宅療養が難しくなった、施設への入所を検討したいなどの相談に対して、医師、看護師、リハビリ、退院支援担当師長、MSWなど院内スタッフが、退院後に在宅生活を支えるケアマネージャー、訪問看護師や訪問診療医などと連携し、患者さん・ご家族とカンファレンスを開催しスムーズに在宅生活ができるようにしています。

また、年2回「市民のための講演会」を開催しており、毎回様々な診療科の医師が腰痛や認知症、喘息などの身近な内容について講演し、それに関連した体操やストレッチのご紹介もしています。

「MSWの一日」

MSWとはMedical Social Worker (医療ソーシャルワーカー)のことです。
桜町病院MSWのとある一日をご紹介します。

- 8:30 部署内ミーティング。それぞれのMSWの予定確認、入院担当ケースの支援状況を確認。
- 9:00 電話対応、相談依頼に対応。他病院MSWより入院相談の電話あり。外来看護師より初診の患者さんが生活に不安のため面接希望とのこと。面接後に地域包括支援センターへ案内。
- 11:00 入院前家族面談。当院入院予定の患者さんご家族と面談。これまでの経緯、入院に対して希望すること、今後の方針を確認。また当院の体制などについて説明。病棟案内。
- 13:30 リハビリカンファレンス。リハビリ介入中の患者さんについて、現状・今後の方向性などについて確認、情報共有。
- 14:30 病棟で入院患者さんと面談。
- 15:30 退院前カンファレンス。入院患者さん、ご家族、院内スタッフ、ケアマネージャーなどと、退院後のサービス内容について相談。
- 16:30 MSW記録作成、電話対応、病棟看護師と担当患者さんについての情報共有など。





普通のコロッケとはちょっと違うゆで卵とハム、ベーコン、玉ねぎの入ったコロッケです。昔から患者さんや職員にも大人気です。

少し手間はかかりますが、ぜひ“桜町名物コロッケ”作ってみてください。

材料 2人分（1人分400Kcalたんぱく質12.4g）

じゃが芋120g（2個） 卵1個 ベーコン30g
ハム30g 玉ねぎ60g（1/2個） 牛乳30cc
バター10g 小麦粉20g 溶き卵15g パン粉20g
塩こしょう少々 付け合せ キャベツ・トマトなど

作り方

- ①卵はゆで卵にして粗めのみじん切りにしておく。
- ②玉ねぎは半分に切り横に2本包丁を入れて薄切りにする。フライパンに油少量を入れて玉ねぎを炒め、薄いきつね色になったら短めの短冊切りにしたベーコン・ハムを加えて炒める。
- ③じゃが芋は洗って1個ずつラップに包み、竹串がスーッと通るまでレンジで5～6分加熱する。冷めるとむきにくいので熱いうちに皮をむく。

One Point じゃが芋は男爵いもを使うとホクホク感が出ます♪
たねはぎゅうぎゅう固めないで軽くまとめると美味しいです！



- ④ ③が熱いうちにこねないようにつぶしバターと牛乳を入れる。①と②を加え、こしょうを少量入れて混ぜ味をみて薄ければ塩を入れ冷ましておく。
- ⑤ ④を4等分して俵型に形を整える。
- ⑥小麦粉、溶き卵、パン粉の順に衣をつける。
- ⑦中温（170℃）で転がしながらきつね色に揚げる。中身は火が通っているので衣がからりとなればOK！ 揚げすぎるとパンクします。

医療のコトバQ&A

第3回「誤嚥性肺炎」



〈回答者〉

呼吸器内科部長

楠本 洋



Q. 誤嚥性肺炎の症状はどんなものですか？

A. 誤嚥性肺炎は、嚥下機能の低下した高齢者や、脳梗塞後遺症などの神経疾患や寝たきりの患者さんに多く発生します。普通、一般の肺炎の典型的症状は発熱、咳、痰などですが、これらの症状がなく、なんとなく元気がない、食欲がない、のどがゴロゴロと鳴るなどの非特異的な症状だけがみられることが多いのが誤嚥性肺炎の特徴でもあります。

Q. 予防するためにはどうしたらいいですか？

A. 基本的に予防に必要な3本柱があります。

①日常生活動作（ADL）の維持 日中の起床、離床、元々のADLの保持。活動。

②栄養管理 エネルギー量、たんぱく質量。脱水対策。

③口腔ケア 口腔保清、口腔機能維持、嚥下体操。

誤嚥性肺炎は、誤嚥したことだけで発症するのではなく誤嚥に伴って気管支や肺に侵入した細菌等の微生物の病原性や量、侵入の深さという侵襲性以外に、その人の抵抗力（誤嚥物の喀出力と免疫力）が関与します。抵抗力を維持・向上するためには栄養状態を良好に保つ必要があり、従って以上の3本柱が重要になります。詳しいことは、かかりつけの医師、看護師に、ご相談ください。

■桜町病院合同慰霊祭

11月3日午後2時より、カトリック小金井教会において、桜町病院合同慰霊祭が執り行われました。当日は秋晴れの穏やかな陽射しの下、当院や小金井訪問看護ステーション関連で亡くなられた262名の方のご遺族や職員が集い、加藤神父によるミサに参列し祈りを捧げました。その後小林病院長から挨拶があり、オルガンと賛美歌の調べの中、参列者ひとりひとりから白いカーネーションの献花が行われました。

■震災・火災訓練を実施しました

11月30日午後4時より、秋の防災訓練を実施しました。まず震度6弱の地震が発生したことを想定し院内の被害状況の把握や情報収集の訓練を行いました。その後の火災訓練では2階外来検査室を火元とした初期消火と避難の訓練を行いました。職員が患者さんとなり車いす等で避難するなど一連の動作確認を行い、実際の動きを想定することで緊張感を持って行動することが出来ました。今後も万が一の事態に備えて訓練を重ねていきます。



■桜町病院のクリスマス

12月、病院各所にツリーやイエス誕生を再現した馬小屋飾りが飾られました。21日には本物？！のサンタクロースが登場し、患者さんやご家族に笑顔を届けてくださり、職員にも嬉しいサプライズとなりました。療養病棟のクリスマス会では、医師や修道院のシスターの卵たちによる演奏と歌が披露され、やさしい歌声とギターの音色に病棟が包まれました。



ご存知ですか？



病院ボランティア① コーラス

当院ではたくさんのボランティアのみなさんが活動しています。今回は“コーラス”をご紹介します。

「コーラスグループはオートハープの伴奏で、病棟各フロア6ヶ所で叙情歌2曲と賛美歌1曲を歌っています。時には患者さんのリクエスト曲と一緒に歌います。また指揮者と一緒に手で調子をとって歌ってくださることもあります。今日も歌が始まるとベッドの上に座ってきいてくださり最後に拍手をいただきました。起きられないので、ベッドの上でいつも楽しみに歌をきいていますとの声もあり、私達の喜びです。患者さんの誕生日には看護師と一緒に『ハッピーバースデー♪』を歌ってお祝いをしています。」

編集後記 桜町病院は今年で開設から80周年となります。昭和から平成へ、そしてその次へ、引き続き地域の皆様に信頼され、役立つ病院として、これからも不斷の努力を続けていくこととしています。 (周)